



日本生涯スポーツ学会
Japanese Society of Lifelong Sports

News Letter

2016.MAY (Vol. 1)

【目次】

- 学会会長に就任して _2
- 副会長就任にあたって _3
- 理事長就任にあたって _3
- 各委員会委員長あいさつ _4
- 新役員体制紹介 _5
- 事務局紹介 _6
- 日本生涯スポーツ学会第17回大会のご報告 _7
- 日本生涯スポーツ学会第17回大会『学生訪問記』 _8
- 日本生涯スポーツ学会第18回大会のご案内 _10
- 関連学会等情報 _11

『学会会長に就任して』

山口 泰雄(神戸大学)



この度、平成 28・29 年度の日本生涯スポーツ学会会長に就任しました。就任に際し、一言、ご挨拶と抱負を述べさせていただきます。

去る 2015 年 10 月 1 日、スポーツ界待望の「スポーツ庁」が文部科学省の外局として設置されました。これまでのスポーツ・健康増進政策においては「縦割り行政の弊害」が指摘され、効果的・効率的・経済的な施策展開ができないという弱みがありました。新しいスポーツ庁は文部科学省を中心に、厚労省や、経産省、農水省、外務省等の省庁をはじめ民間企業からの出向者を含め 120 名余のスタッフで構成されています。そして、スポーツ庁はスポーツ立国の実現を目指していることから、多様性と透明性、インクルージョン、柔軟性をもった生涯スポーツ研究へのニーズと期待が高まっています。

また、2019 年からの 2021 年の 3 年間は、“ゴールデン・スポーツイヤーズ”(間野, 2015)とされています。これは、ラグビーワールドカップ 2019、東京オリンピック・パラリンピック 2020、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 と続くメガイベントの連続開催です。その中で、ラグビーワールドカップと東京オリ・パラというトップスポーツへの莫大な予算とその成果が、いかに「生涯スポーツ社会の実現」と「地域社会の活性化」に対して、レガシーとして貢献できるか否かが問われなければなりません。

日本生涯スポーツ学会は 1999 年に設立され、本年度は、18 年目を迎えます。この夏の参議院選挙から 18 歳選挙権が認められますが、本学会も新たな成人期というライフステージに入ります。学会事務局も、これまで長年に渡って、学会の運営に貢献して頂いた鹿屋体育大学から広島経済大学へ移転し、新装開店を致します。そこで、新たな生涯スポーツ学会のスタートに際し、3 点提案したいと思います。

第 1 点は、「学会大会の活性化」が挙げられます。活性化に向けては、研究委員会において学会大会賞の創設準備に取り組んでもらっています。できれば本年度の東京都江東区での第 18 回大会からスタートできればと期待しています。また、学会大会の活性化においては、行政や企業、地域団体等との連携・協働を進めることが、参加者の増加、内容の充実につながると確信します。

第 2 点は、「学会関連情報の共有、発信、公開」が求められます。学会事務局と広報委員会には、新しいウェブサイトにおいて、新しい情報の共有と発信を期待したいと思います。透明性の推進は、国内外のスポーツ団体にとって、今、最も求められる課題ですが、本学会においても透明性の確保を情報公開によって進めたいと考えています。

第 3 点は、「学会の社会貢献・地域貢献を進める」ことです。学会大会を開催することによって、開催地の生涯スポーツのイノベーションが進み、開催地域がアクティブになってほしいと考えています。また、シンポジウムの成果や他団体との連携・交流事業を積極的に進め、これまでの生涯スポーツ事業だけでなく、障がい者スポーツの振興にも積極的に関わる必要があると思います。

学会の発展においては、会員の皆さん一人ひとりの学会活動に対する関わりが重要で、学会員の増加が必須です。是非、周囲の友人・仲間・同僚の皆さんに入会を勧めて頂きたいと思います。また、学会をささえる法人会員、スポンサーも増やしたいと思います。最後に、本学会の運営や活性化に関して、学会員の皆さんの自由で、忌憚のないご意見、要望、批判を役員、理事会、事務局に頂ければ幸いです。

『副会長就任にあたって』

内海 和雄(広島経済大学)



地域子ども会やPTAの会長を経験してから、「長」が付くのは 20 年ぶりとなります。副会長の仕事は、「会長が事情有るときは、その会務を代行する」事ですが、会長がお元気なので、出番は無いでしょう。また、事務局が広島経済大学に移りましたが、事務局長の松本耕二先生が万全に取り仕切って居られますから、こちらでも出番は少ないでしょう。その分、「生涯スポーツ学会」とは何をやるどころか、自問の時が多くなりそうです。

個人の研究としては「スポーツと人権、福祉」の関係を深めたいと思っています。長い間自分の中では不問に付して来た「ジェンダーとスポーツ」「女性スポーツと人権、福祉」と今、格闘しています。このテーマは「資本主義論」と「家父長制論」の両者を、そして今後の展望として福祉国家論を絡めて究明しなければなりません。奥の深い課題です。

国民、特に若者の非正規雇用が増加し、貧困化、長時間労働化しています。スポーツに参加する前提の可処分所得、可処分時間がありません。また国民のスポーツ参加政策が国レベルでも地方自治体レベルでも低調化し全国で毎年約 1,000 施設が消失しています。こうした中で女性も含めた国民のスポーツ権をどのように保障すればよいのでしょうか。まさに、生涯スポーツ学会が真正面から格闘すべき課題だと思います。

『理事長就任にあたって』

菫 裕美子(東海大学)



このたび、山口泰雄先生の後任で理事長を拝命いたしました。とても山口先生の代わりが務まるものとは思っておりませんが、会員皆様のお力をお借りして、少しでも本学会が前進するよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、学会設立以来、「生涯スポーツ」という新しい概念に立ち向かいながら、本日まで邁進してきました。結果、社会では一定の理解が得られつつあると思われまます。本学会では、学会大会や学会誌で「スポーツ」の概念を広くとらえることを伝え、「スポーツ」との関わり方も「する」だけでなく「見る」「聞く」「支える」など、様々な角度からもアプローチができることを伝えてきました。本学会の働きだけではありませんが、このことに異を唱える人は少なくなったと思われまます。これは大きな前進です。

今後においては、「スポーツ」を広くとらえることによって、より多くの人々にとって身近なものにしていくこと。日常の中に、あるいは非日常の中にも、「スポーツ」がなくてはならないものになっていくことが期待されます。この点においてはまだまだ研究が足りないと思われまます。まさに本学会が果たすべき役割であると思われまます。ますます多様性が求められる社会において、これから会員の皆様の研究活動が活発になり、「スポーツ」の価値をさらに広げていくことができたらよいと思われまます。やるべきことがたくさんあると思われまます。皆で学会を盛り上げて頑張っていましょ。

『編集委員会委員長就任にあたって』

長ヶ原 誠(神戸大学)



この度、学会誌の編集委員長を仰せつかりました神戸大学の長ヶ原誠と申します。昨年度まで、萩裕美子委員長の下で副委員長を務めながら本学会誌作成に関わる様々な勉強をさせて頂きましたが、本学会誌の発展に尽力された前編集長からのバトンをしっかり引き継ぎ、本誌の益々の発展に微力を尽くす所存です。新編集委員会では、同じく前年度まで編集委員を務めてこられた富山浩三先生(大阪体育大学)、久保田 晃生先生(東海大学)の両先生に副委員長を務めて頂き、荒尾 孝先生(早稲田大学)、山田理恵先生(鹿屋体育大学)、伊藤克広先生(兵庫県立大学)、竹内 亮先生(大阪体育大学)が新たにご就任され、非常に強力な豪華メンバーの顔ぶれとなっております。

本学会誌は、会員同士を繋ぐ極めて重要なチャンネルであると同時に、生涯スポーツを共通命題とする各学会員の研鑽から発信された学問的知見の集積体ですが、これがより活発化し進化していくよう編集委員の総力を上げて尽力していく所存です。いずれの学会誌においても、学会員の方々から投稿される論文が最も基本かつ重要なライフラインです。日本生涯スポーツ学会の貴重な資産である『生涯スポーツ学研究』をさらにレベルアップさせ、内外の関連する学会誌の中でも存在感を益々発揮しながら発展していくよう、皆様からは忌憚のないご意見を賜りながら、さらに積極的な投稿や査読へのご協力を頂きますようよろしくお願い致します。

『研究企画委員会委員長就任にあたって』

石澤 伸弘(北海道教育大学)



北海道教育大学札幌校の石澤です。この度、研究企画委員長を仰せつかりました。よろしくお願い申し上げます。

鹿屋体育大学大学院の学生の頃からこの生涯スポーツ学会には参加させていただいております。この間、鹿屋→神戸→札幌と転戦して参りましたが、学会大会毎のプログラム集などを見直して見ると、まさに私の「人生の縮図」を見ているような感じがして、感慨深いものがあります。あと数年で20年目の節目を迎えようとしているこの学会を全面的にバックアップして参る所存ですので、学会員の皆さまにおかれましては相変わらずのご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

現在、当委員会において、学会大会時の「若手研究者賞(仮題)」のスタートに向けての準備を開始しております。今年度の第18回大会からの実施を目指しておりますので、ご協力を賜りたく存じます。

ラグビーワールドカップ2019、東京オリ・パラ2020、そして関西ワールドマスターズゲームズ2021を控える我が国において、生涯スポーツへの関心は最高潮に達する事でしょう。そのような中で学会員の皆さま方と共に、この学会を更に盛り上げて行きたいと考えております。気張ります！！

『広報委員会委員長にあたって』

工藤 保子(笹川スポーツ財団)



この度、広報委員長を仰せつかりました工藤保子です。昨年の総会で新体制が承認されてすぐに、山口会長からニュースレター発行のご提案があり、皆様のご協力のお陰で早速お手元にお届けすることができました。今後、学会関連情報の共有・発信・公開のツールとして、ウェブサイト等と併せて、学会員の皆さまのお役に立てるものとして、委員の北村尚浩先生(鹿屋体育大学)、高見彰先生(大阪国際大学)、仲野隆士先生(仙台大学)のお力添えを頂きながら取り組んでまいりたいと思っております。その他、広報委員会の活動としては新会員獲得や、行政や企業、地域団体等との連携を図るための働きかけも必要となってまいります。学会員の皆さまのネットワークも活用させていただきながら、取り組んでまいりたいと思いますので、何卒ご協力よろしくお願いたします。

【新役員体制紹介】

日本生涯スポーツ学会 役員・顧問・事務局
(任期:2016.4.1～2018.3.31)

会 長	山口泰雄 (神戸大学)
副会長	内海和雄 (広島経済大学)
理事長	萩 裕美子 (東海大学)
顧 問	川西正志(鹿屋体育大学)、野川春夫(順天堂大学)
編集委員会	委員長 長ヶ原 誠(神戸大学) 副委員長 久保田晃生(東海大学)、富山浩三(大阪体育大学) 委 員 荒尾 孝(早稲田大学)、伊藤克広(兵庫県立大学) 竹内 亮(大阪体育大学)、山田理恵(鹿屋体育大学)
研究企画委員会	委員長 石澤伸弘(北海道教育大学) 委 員 工藤康宏(順天堂大学)、田畑 泉(立命大学)、二宮浩彰(同志社大学) 前田博子(鹿屋体育大学)、松永敬子(龍谷大学)
広報委員会	委員長 工藤保子(笹川スポーツ財団) 委 員 北村尚浩(鹿屋体育大学)、高見 彰(大阪国際大学) 仲野隆士(仙台大学)
監 事	松岡宏高(早稲田大学)、吉武 裕(鹿屋体育大学)
事務局	事務局長 松本耕二(広島経済大学) 事務局員 岡安 功(広島経済大学)、坂口俊哉(鹿屋体育大学) 中嶋則夫(広島経済大学)、涌井佐和子(順天堂大学) 渡辺泰弘(広島経済大学)

『事務局紹介』

松本 耕二(広島経済大学)



これまで 1999 年の学会設立時より、北村尚浩先生をはじめとした鹿屋体育大学の皆様に永年に亘り学会事務にご尽力をいただきましたが、この度 4 月より、広島経済大学で事務局を承ることとなりました。学内には 5 名の会員(副会長に就任された内海和雄先生、岡安 功先生、中嶋則夫先生、渡辺泰弘先生と私)が在籍しています。新事務局では学内の会員を中心に前事務局の坂口俊哉先生(鹿屋体育大学)、涌井佐和子先生(順天堂大学)のお力添えを頂きつつ、強力なスクラムを組んで進めて参ります。

会員の皆様をはじめ、多くの方々にお願いすべき事が様々にあろうかと存じます。どうかご理解とあたたかなご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



広島経済大学の会員(副会長と学会事務局)

(左から事務局長の松本氏、事務局員の渡辺氏、副会長の内海氏、事務局員の中嶋氏、岡安氏)



事務局員の坂口氏(鹿屋体育大学)、涌井氏(順天堂大学)

【日本生涯スポーツ学会 事務局】

〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1 広島経済大学内 松本研究室気付

TEL&FAX:082-871-1641 Email:jp.liflong.sport@gmail.com

HP:http://lifelong.nifs-k.ac.jp/society Facebook:https://www.facebook.com/lifelong.sports

日本生涯スポーツ学会第17回大会のご報告

2015年10月31日(土)と11月1日(日)の2日間にわたって開催された第17回学会大会は、多くの皆さんに遠路はるばる“日本のセンター(The Center of Japan)”までお越しいただき、成功裏に終えることができました。実行委員会を代表して感謝申し上げます。

日本生涯スポーツ学会第17回大会実行委員会
委員長 北村尚浩

- 期 日：平成27年10月31日(土)～11月1日(日)
- 会 場：鹿屋体育大学(鹿児島県鹿屋市)
- 主 催：日本生涯スポーツ学会
- 共 催：鹿屋体育大学
- 運 営：日本生涯スポーツ学会第17回大会実行委員会
- 協 賛：有限会社市村出版、公益財団法人笹川スポーツ財団、斯文堂株式会社、株式会社Sports Link & Share

- 大会名誉会長 福永 哲夫(鹿屋体育大学 学長)
- 大会会長 川西 正志(鹿屋体育大学/日本生涯スポーツ学会 会長)
- 大会実行委員会 (鹿屋体育大学)
 - 委員長 北村 尚浩
 - 副委員長 前田 博子
 - プログラム 西澤 昭、竹下 俊一
 - 会 場 隅野 美砂輝、柳沼 悠
 - 広 報 坂口 俊哉
 - 総 務 吉武 裕、齋藤 和人、松元 隆秀
 - 会 計 山田 理恵、長島 美央子

- 大会テーマ 『生涯スポーツとトップスポーツの融合』

■ 大会日程

10月31日(土)	9:00	開会式
	9:30	一般発表Ⅰ
	11:30	総 会
	13:30	基調講演
	14:40	シンポジウム
	16:40	ポスター発表
11月 1日(日)	19:00	懇親会
	9:00	ミニ・シンポジウム
	10:30	一般発表Ⅱ
	12:30	閉会式
	13:00	スポーツパフォーマンス棟見学ツアー

- 大会参加者 130名(一般:110名、学部生:20名)
- 懇親会参加者 100名(一般:80名、学部生:20名)

- 発表演題数 オーラル:29演題 ポスター:14 演題

■ 基調講演

演 題 オリンピックレガシーとしてのスポーツパフォーマンス研究
演 者 福永 哲夫 氏(鹿屋体育大学 学長)

■ シンポジウム

テーマ 2020オリ・パラ東京大会に向けた日本のスポーツ振興へのオリンピックレガシー
演 者 「スポーツ庁の新設と今後のスポーツ振興」
舟木 泰世 氏(スポーツ庁 健康・体力づくり係長)
「組織委員会参与の立場からトップスポーツへの期待」
上治 丈太郎 氏(公益財団法人日本オリンピック委員会 国際専門部)
「SFT事業を通じた人材育成へのレガシーとは」
川西 正志 氏(鹿屋体育大学 副学長)
コーディネーター 山口 泰雄 氏(神戸大学 教授)、 萩 裕美子 氏(東海大学 教授)

■ ミニ・シンポジウム

テーマ 2020 年に向けた鹿児島県のスポーツ振興
演 者 鹿倉 貢 氏(鹿児島県教育庁 保健体育課長)
太田 敬介 氏(NPO 法人 SCC 理事長)
川前 真一 氏(株式会社 Sports Link & Share 代表取締役)
コーディネーター 山口 泰雄 氏(神戸大学 教授)、 萩 裕美子 氏(東海大学 教授)

【学生訪問記】

『第17回生涯スポーツ学会鹿屋大会に参加して』

小林弘大(順天堂大学 スポーツ健康科学部4年)



私の所属するスポーツマーケティングゼミナールでは、3年次に日本生涯スポーツ学会大会でポスター発表をすることが、定例となっています。3年生であった私にとっての初めての学会参加が、鹿屋体育大学で開催された日本生涯スポーツ学会第17回大会でした。私達は、茨城県古河市で開催されている「古河マスターズサッカー大会」にて男性シニアサッカー選手に質問紙調査を行い、分析した結果をポスターにまとめ発表しました。

今回、初めて学会発表を行うにあたり様々な障壁がありました。特に、苦労したのが、調査以前に整理した先行研究とは異なる分析結果になり、まとめ方が分からなくなってしまった点です。追加の先行研究や資料を収集し、指導教員に助言を頂きながら、なんとか発表にこぎつけることができました。足りない知識や情報を、学生同士で協力しながらかき集め、一つの研究を仕上げていくという課題解決の過程が、社会に出る準備期間である大学生に必要とされていることではないかと実感しました。

また、この学会では様々な発表や、他大学の先生方が多数参加されており、普段学外の方と接する機会が少ない私達にとって、刺激の多い2日間となりました。特に私が印象に残っているのは、ポスター発表後の質疑応答の際に、広島経済大学の先生が私達に対して質問をして下さった時のことです。その先生は、質問だけでなく、まとめ方、発表の仕方にまで言及をしてくれました。学外の方にここまで真剣に向き合っていただく経験はこれまであまりなく、このような機会こそが学会の意義であり、学生が成長できる瞬間だと感じました。

今回の学会参加で、現在学んでいる研究活動の難しさ、奥深さと共に、生涯スポーツという今後の社会に必要な学問にも触れることができました。4年生になり、卒業が近づく中、今回の経験を活かし就職活動や卒業研究に取り組み、社会に出る準備を進めていきたいと思えます。

『初めての学会参加を通して』

神野あきら(和歌山大学観光学部 3年)



今回の第17回日本生涯スポーツ学会大会が、私たちにとって初めての学会参加となりました。所属ゼミナールが決定してすぐということもあり、知識も何も無かったのですが、学会というものがどういうものなのか、また、学問といった視点から見る生涯スポーツがどういうものなのか知りたいという好奇心から学会参加を希望しました。

実際に参加してみて、一般・ポスター発表ともに、まず研究内容と同じくらいプレゼンテーション力が研究発表を成功に導くために重要であると感じました。内容をすんなり理解できる研究発表もあれば、簡単に内容を理解できないものもありました。この違いは、単に自分が興味のある内容かどうかだけでなく、プレゼンテーションの仕方によるものだと思います。自分が興味のある研究テーマでも、他人もそうであるとは限りません。聴衆の興味をどれだけかき立てられるかが、研究発表する際に重要なのだと今回の学会参加を通じて学ぶことができました。特に、ポスター発表では短時間でいかに内容を上手く伝えることが出来るか、発表者が話すだけでなくあえてフロアから質問させるようなプレゼンテーションを考えることも必要なのだと感じました。また、発表を聞いていて、予想通りの結果が得られない、時間をかけた研究でも限られたことしか明らかにできないという学問の難しさも知ることができました。

学会に参加されていた先生方は親しみやすい方ばかりで、質問したこと以外にも学会のことや観光とスポーツの関連、各先生方の研究分野のことなどたくさんの貴重なお話を伺うことができました。先生方だけでなく、他大学の先輩方も積極的に話しかけてくださり、2日間とても楽しい時間を過ごすことができました。

今回の学会参加を通して、学問としての生涯スポーツにさらに興味が湧きました。これから知識を身に付けていくと同時に、観光学部生として観光の面から生涯スポーツを考えることを忘れないように気をつけたいと思います。



日本生涯スポーツ学会第18回大会のご案内

■ 大会概要

期 日 平成28年11月5日(土)～6日(日)
 会 場 東京都江東区 豊洲シビックセンター
 〒135-0061 東京都江東区豊洲2丁目2番18
 主 催 日本生涯スポーツ学会
 共 催 公益財団法人江東区健康スポーツ公社
 運 営 日本生涯スポーツ学会第18回大会実行委員会
 大会テーマ 「障がい者スポーツと生涯スポーツの共生～パラリンピックのその先に向けて～」

■ 大会スケジュール(予定)

於：江東区豊洲シビックセンター

	11月4日(金)	11月5日(土)	11月6日(日)
8:00		大会受付(8:30～) ロビー(5階)	大会受付(8:30～) ロビー(8階)
9:00		開会式 ホール(5階)	
10:00		口頭発表：Ⅰ 第一・二・六研修室 (8階)	口頭発表：Ⅱ 第一・二・六研修室 (8階)
13:00		総会 ホール(5階) 基調講演(13:30～) ホール(5階)	閉会式 サブレク(7階)
14:00		シンポジウム(14:30～) ホール(5階)	
15:00			
17:00	理事会 研修室(7階)	ポスター発表 ギャラリー(1階)	
19:00		懇親会 レクホール(7階)	

※：大会プログラムは変更する場合があります。

【宿泊について】

大会当日は豊洲シビックセンター内で懇親会を行う予定です。シビックセンター周辺には宿泊施設がありません。宿泊施設としては豊洲駅より公共交通機関を利用して、門前仲町駅周辺[「都バス海01」門前仲町下車]、有明周辺[「新交通ゆりかもめ」有明駅下車]に複数宿泊施設がございます。また学生の皆様は、新木場駅[「地下鉄 有楽町線」]『BumB(ぶんぶ)東京スポーツ文化館』のご利用もご検討ください。

■ 大会実行委員会 事務局

〒135-0063 東京都江東区有明2-3-5 有明スポーツセンター(担当：相原)
 TEL:03(3528)0191 FAX:03(3528)0192
 E-mail:gakkai-18@koto-hsc.or.jp(第18回大会専用メール)

【関連学会等情報】

- 国際スポーツ社会学会(ISSA)大会
2016年6月8～11日(ブタペスト・ハンガリー)
- Travel & Tourism Research Association Conference (TTRA)
2016年6月14～16日(コロラド・アメリカ)
- 世界レジャー会議
2016年6月27～30日(ダーハン・南アフリカ)
- 日本スポーツとジェンダー学会大会
2016年7月2～3日(東京女子体育大学・東京)
- 日本スポーツ産業学会大会
2016年7月16～17日(順天堂大学・東京)
- 日本体育学会大会
2016年8月24～26日(大阪体育大学・大阪)
- The 6th TAFISA World Sport for All Games
2016年10月6～12日(ジャカルタ・インドネシア)
- 文部科学省他「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」
2016年10月19～20日(ロームシアター京都等・京都)
2016年10月21～22日(六本木ヒルズ等・東京)
- 北米スポーツ社会学会(NASSS)大会
2016年11月2～5日(フロリダ州タンパ・アメリカ)
- Sport Management Association of Australia and New Zealand (SMAANZ)
2016年11月23～25日(オークランド・ニュージーランド)
- Travel and Tourism Research Association Asia-Pacific Chapter Conference
2016年12月2～4日(ドバイ・アラブ首長国連邦)
- 日本スポーツマネジメント学会大会
2016年12月10～11日(近畿大学・大阪)



【編集後記】

本学会として、久しぶりにニュースレターを発行いたしました。今回のニュースレターの基礎は、2012年度の広報委員 伊藤克広先生が編集・発行されたものをほぼそのまま参考にさせていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。本ニュースレターは、会員の皆さまの情報交換の場ですので、様々な情報をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております。(広報委員長 工藤保子)

※ 学会への連絡は【日本生涯スポーツ学会事務局】へ

〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1 広島経済大学内 松本研究室気付
TEL&FAX : 082-871-1641 Email : jp.lifelong.sport@gmail.com
HP : <http://lifelong.nifs-k.ac.jp/society> Facebook : <https://www.facebook.com/lifelong.sports>